

鐵と鋼 第壹號

大正四年三月三十日發行

祝辭

東京帝國大學工科大學長

渡

邊

渡

抑も我鐵鋼事業は、古き歴史を有し、永き鍛鍊を經たるも、其用途の狹少に伴ひ、發達遅々として振はす、近く文物の齎されたる以來、斯界に甚しき變化を來し、一方外國に供給を仰くと共に、他方研究に孜孜たりし結果、比較的著しき進歩を見、輒近其製品に於ても、大に見るべきものあるに至れり、然れども此成績は、決して普遍的のものに非らざるを認めて、甚遺憾とせり、此秋に當り、日本鐵鋼協會は設立せられ、會員翕然として集り、忽ち一大團結を形成せり、其般なる亦想ふへし、而かも其組織は、廣く鐵鋼に關係ある人士を網羅して、協心協力以て斯界の指導者たらんとす、是れ洵に時運に適合したるものと謂ふへし、加之、鐵と鋼なる機關雜誌發刊せられ、益々斯界に貢獻せんとす、邦家の爲め慶賀措かざる所なり、而して此晩生の本會か、今後異數の發達を遂く可きは、炳として明かなりと雖も、我鐵鋼界は、愈々攻究を要すへき一二にして止らます、切に諸君の努力に待つこと大なり、茲に本誌發刊に際し、聊か蕪辭を述へ以て祝意を致す。

祝辭

團 琢 磨

鐵業は其國文明のバロメートルなり、富強の尺度なり、其國文明の消長富強の程度は其國鐵業の盛衰如何を見は略ぼ之を知り得へし、米、獨、英の三國か鐵業に於て世界に冠絶せるは即ち一面其國の文明、富強か他の匹儔を抽んするを知り得へし、然るに我帝國は鐵産額頗る僅少にして其文明、富強の程度と相距ること太た遠く、鐵業を以つてしては、世界各國の末班に列するに過ぎざるに其文明と富強とは遙に超へて世界一等國の伍伴に入れり、是れ周知の格言に一例外を爲すものにあらざる無きを得んや、然れとも熟々事の真相を見れば鐵業の隆昌なくして其國の文明富強を見るか如きは畢竟鞏固なる基礎の上に立たざる文明富強のみ、今の日本は鐵と鋼とを重に外國に仰けりと雖、一朝事あるの日、鐵なくして其文明と富強とを果して完全に維持し得へきや、我國の産業と國防とは猶ほ十分に鞏固ならざる基礎の上に立てり、鐵業の盛衰は實に一國の運命にも關するものなり、我國の鐵業は官業の枝、光製鐵所を始め民業のもの數箇所あり、鐵業の基礎漸く成れりと雖、前途更に大に發展するにあらずんば、我國の文明富強の程度に伴ひ、鐵業か文明のバロメートルたり、富強の尺度たる實を示すことは甚た難しと謂はざるへからず、況んや其發展によりて我國をして益々文明富強の域に進ましむるをや、然れとも言ふは易く行ふは難し、我鐵業をして更に大なる發展をなさしめんとするには上下共に奮勵努力、事に茲に従ふにあらざれば、到底其目的を達すへきにあらす、茲に時運方に到りて日本鐵鋼協會創立され、斯業の一機關として學術經濟等各種の方向より研覈攻究し、機關雜誌「鐵と鋼」を發行して以つて斯業の發展に資する所あらんとす、惟ふに先進諸國既に此の設あり、本會の創立は即

ち我鐵業の進歩して其基礎の漸く成れるを具體的に證明したるものに外ならず、本會能く其本分を盡さは斯業に裨益する所必ずや尠少にあらざるへし、雜誌「鐵と鋼」の發刊に臨み、一言所感を述へて鐵業の進歩と雜誌の發刊とを祝すと云爾

日本鐵鋼協會の成立並に其機關雜誌 第一號の發刊を祝す

今 泉 嘉 一 郎

吾曹多年の宿望たりし、日本鐵鋼協會は茲に日露戰役後第十年を以て其成立を告ぐるに至れり、維新以來茲に四十有七年帝國か鐵の輸入の爲に海外に支拂ひたる金額は無慮二十億圓に達すべく而して今や年々一億三千萬圓の輸入を見るのみならず年と共に益々輸入増進の勢あり此の如く鐵需用の増進するは帝國々勢の振興を表するものにして其點に於て之を祝するを得へしと雖も此の如き多額の需用を一に外國の供給に待つか如きは遂に帝國の經濟的獨立を危くするものと云ふ可し今や我國民は多年繼續せる貿易逆勢の容易に回復の勢なきに驚きて漸く自覺せんとするの時に際し恰突發せる歐洲の大亂は鐵の輸入に對し多大の故障を生ずるに至り内地製鐵事業、鐵工事業に向て明かに振興の機運を示せり、之に加ふるに新領たる朝鮮の鐵鑛開發は益有望の事業となり新活動地たる滿洲に在りては頗る確實なる基礎の上に大規模の製鐵事業を開始するあり一般の趨勢漸く本邦製鐵事業の發展を促さんとするの時に當り本協會の成立を見るに至りたるは頗る其時機を得